

自然体で暮らす／いなか王国・高知県安田町

# まんま

Vol.1

Enjoy Country Life  
YASUDA CHO

「第1号」2000 MARCHI 3



安田町  
ふるさと便  
Vol.1

自然の味と  
ふりこいべ。

送ってあげます。



●ふるさとの味をお届けします●

ふるさと便では、安田町の郷土産品を全国発送いたしております。

## 安田のふるさとセット

ふるさとセット **クール便**

**4,600円** ※送料・消費税込

■内容／とろろん一番(冷凍パック)3袋、椎茸 200g、ゆず 3個、むかご 200g

ふるさとセット **クール便**

**3,500円** ※送料・消費税込

■内容／とろろん一番(冷凍パック)3袋、ゆず2個、むかご100g

## 最高級特選山芋

自然薯2.0kg (3~5本)

**5,500円** ※送料別・消費税込

自然薯1.0kg (2本)

**2,750円** ※送料別・消費税込

## とろろん一番 **クール便**

**700円** ※消費税込

■内容／山芋のすりおろし(冷凍パック)1袋

※詳しいお問い合わせ、ご注文は下記までお電話またはFAXでどうぞ。

JA土佐あき中山支所／〒781-6430 高知県安芸郡安田町正弘694-2  
**TEL.0887-39-2031 FAX.0887-39-2411**

## 編・集・後・記

安田町ふる里だよりで編集をしようと思ったけど、「自然のまんま」「田舎のまんま」でこのタイトルになったきね。田舎もがんばりゆうき、えいことを思いついたら連絡してや。



お問い合わせは

## 安田町役場企画室

〒781-6421 高知県安芸郡安田町大字安田1850  
TEL.0887-38-6713 FAX.0887-38-6780  
E-mail yasuda@wide.net-kochi.gr.jp

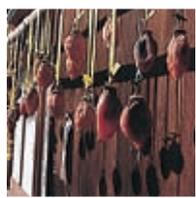
安田町役場中山支所／〒781-6430 高知県安芸郡安田町大字正弘716-2  
TEL.0887-39-2008 FAX.0887-32-4008



旧／田の尻吊橋

# 安田町

なつかしい風景があつて、そのままの自然があつて、あつたかい人が迎えてくれる。気負いのない力強さや、やさしさが、この町にはあります。



## Contents

- 13
- 11
- 9
- 7
- 6
- 5
- 3

生きちゆう間は  
現役よ



黒岩寿恵治さん（92歳） ●安田町正弘  
秘密はゆずのどろめにある  
白川重信（72歳） ●安田町小川  
山で鍛えた暮らしの手業  
北村晴一さん（92歳） ●安田町正弘  
人も自然も元気いっぱい  
ふるさとの思ひ  
今昔写真館  
安田町なつかしマップ



わしらあは、自然が  
生涯現役で  
おらしてくれるで。

## 生きちゆう間は現役よ 70歳で山芋作って村おこし

黒岩寿恵治さん(92歳) ● 安田町正弘

人はいつたい、何歳まで新しいことにチャレンジできるのか。それも趣味や習い事ではなく、仕事として。

黒岩寿恵治さんが村の特産品開発に山芋栽培に着手したのは、実に70歳の時のことだ。  
「生きちゆう間は現役のつもりやき、年のことは気にならなんだね。稲の収穫を終えて3月までの農閑期に、山で自然薯50キロを採取してそれを種芋に山芋の栽培を始めたがよ。」

安田町生まれ、安田町育ち。戦時中の兵役を除いて、安田町から出たことはない。

70年の町での暮らしから、その土地にふさわしい産物として山芋を選んだ。  
「小学校の時分から山で自然薯を採ってきて食べていたので、なじみがあったんやろつね。何か村を代表する産品を作ってほしいといわれたとき、自然と頭に浮かんだのが山芋やった。」  
始めて2年目、小学校の理科の教材として山芋栽培が取り上げられる。黒

岩さんは種芋を提供、もちろん、栽培方法の指導も行った。先生、生徒とともに、PTAも協力して、栽培実習に乗り出したのだ。

「この時PTAで参加した人らーが、今は生産者としてがんばりゆうねー。20年いってもあつという間やつたけど、こうしてみると長い間やつてきたと思う。山芋も村の産品として定着したし、小学校で開かれる山芋祭もずいぶん盛大



になったもんや。」

山芋が村の名産品として成長した現在、黒岩さんは生産者としては第線から引退。今は自家用の栽培をしているだけだという。それでも、山芋だけで日本!!

ほかにも大根や菜っ葉類なども栽培している。ここ20年、とんと病気をしたこともない。

「夏は安田川で鮎を釣ったり鰻を採ったり。わしは鮎釣りはあんまりうもうないけど、鰻採りの名人ぜよ。冬は山芋作りに忙しい。くるくる体を動かしよらあ、歳をとる暇はないでね。まあ、安田町の川と山に遊んでもらいよるようなもんよ。」

安田川の話をする、それはうれしそうに目を細める黒岩さん。早くもこの夏の鰻漁に思いを馳せているようだ。

# 器量は悪いが味はえい 秘密はゆずのどろめにある

白川重信さん(72歳) ●安田町小川



「実生(種から育てた木)のゆずは、味が違う。香が違ふ。日持ちもえい。そりゃあ、ゆずのどろめを見りゃ一目瞭然よ。えー、ゆずのどろめも知らんがかえ。」

熱く熱く、実生のゆずの魅力を語る白川重信さん。自ら隠居生活と言いつつ、二本以上のゆずを栽培している。ちなみに「ゆずのどろめ」とは、ゆずの酢の上の部分に溜まる白く濁った泡のようなところ。このゆずのどろめが多ければ多いほど香り高いゆずの酢であり、実生のゆずでつくったものほどどろめが多いという。「収穫時期の11月ともなれば、家族総出で丸一カ月は作業に追われる。それ以外にもせん定、間引き、施肥と忙しいことは忙しい。けんど、めりはりのある忙しさで、気分的にはのんびりのんきにやりゆうでね。それにゆずは手をかけちゃ

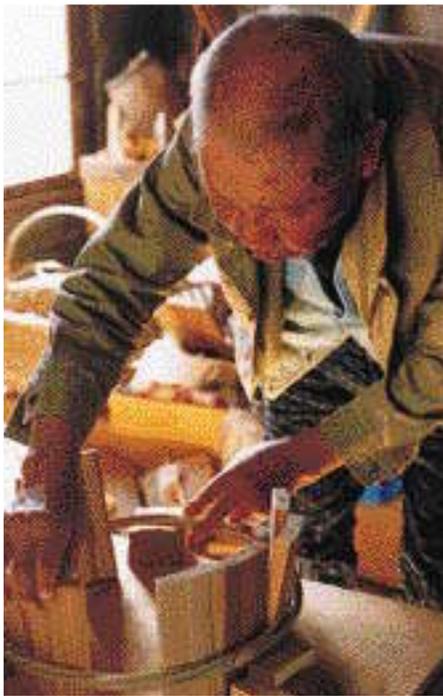
ばかけちやる程えいもんができる。えいゆずができりゃ、まっごころれしいもんぜよ。ものをとくる楽しみとは、このことぜ。」

白川さんの本当の隠居生活は、またまた先のことようだ。



# ハンボも作れば、ほうきも作る 山で鍛えた暮らしの手業

北村晴一さん(92歳) ●安田町正弘



分厚くて大きな手が、ゆつくりと、しかし器用に杉の木片を竹の枠のなかに並べていく。手の持ち主は、北村晴一さん。作っているのはハンボ(飯台)だ。作りかけの漬物たるもある。作業場の壁にはカンナやノミなどの年配の入った道具が並ぶ。きちんと手入れがされた、現役の道具たちだ。

「20歳から50歳まで森林伐採の仕事についていたがよ。もの作りはそのときに覚えたでね。誰っちゃー教えてくれはせん。見覚えの自『流』よ。」

北村さんが作るのはハンボだけではな。い。ほうき、干柿、畑では玉ねぎやエンドウ、山芋も。これらの材料は、自分で山からとってくることも多い。山の恵みを活かして使うことのできる技術と知恵を、北村さんは身につけている。

「手先を使つて、こちよこちよと何かを作るのは楽しいでね。まあ、わしの唯一の趣味のようなものや。」

仕事を終えると、畑から野菜をとって料理する。時々、お酒も召す。豊かさの意味を考えさせられる何かが、北村さんの暮らしのなかにある。



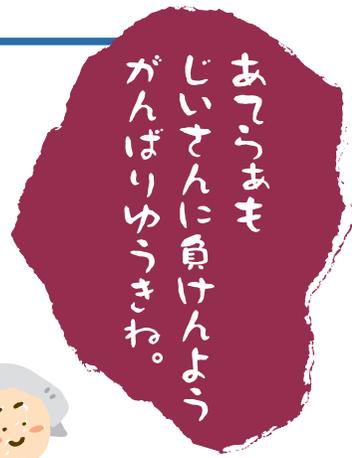
味工房じねんでは、山芋や鮎といった安田町の豊かな食材や農林産物を加工した郷土産品を販売しています。施設には販売所の他にも食品加工室や体験コーナーなどがあり、体験コーナーでは軽食を楽しむこともできます。建物は周囲の自然景観と調和するように配慮された木造平屋建です。



山芋の加工



女性部の加工品作り



「お客さんとの出会いが、そりゃあ楽しいがよ。おかげで生活に張り合いがでちゅう。パターと化粧もすりゃあ服もちよっといいのを着て。まっこと、市をやるのは楽しいで」「市に出れるのも、お父ちゃんの理解あつてこそ。なんののかんの言うても、野菜の搬入らあ、手伝うてくれる。ありがたいこっちゃね。」



JA女性部のみなさん



「今日は何をかうってつてくれるー?」  
 「久しぶりやねー。」  
 「ちよつと、これ食べてみ。試作品やき、大根の天ぷら。」  
 おばちゃんたちの元気な声が、海沿いの小さな広場に響きわたる。中山ふるさと市。毎月第2、第4の日曜日、中山地区で採れた野菜やおばちゃんたち手作りの惣菜が、この小さな市に並ぶ。片隅では、天ぷらは揚げている。シューシューと油のはねる威勢のいい音と香ばしいかおり。  
 準備は夜中の1時から。田舎寿司やちらし寿司を作り、天ぷらの材料を仕込む。ピーマン、ブロッコリー、みかん…。収穫した野菜を運び入れる。まさに、採れたち、作りたちの山の幸が並ぶのだ。当然、常連さんも多い。遠く、南国市から買い

鉄道も走るし  
道路もようなりゆう。

阿佐線開通へ

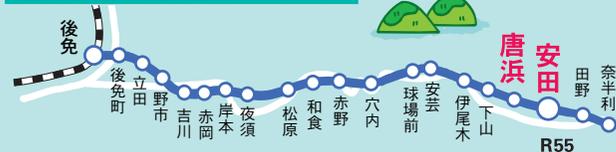
■土佐くろしお鉄道(後免〜奈半利間)は平成14年の開通を間近にひかえ、現在急ピッチで工事が進められています。安田町には「安田」と「唐浜」の2駅が設置されます。

道路整備も着々と

■阿南安芸自動車道(阿南〜安芸間)の道路整備も順調に進んでいます。安田〜安芸間も調査区画に指定され実現に向けてのルート整備がなされています。

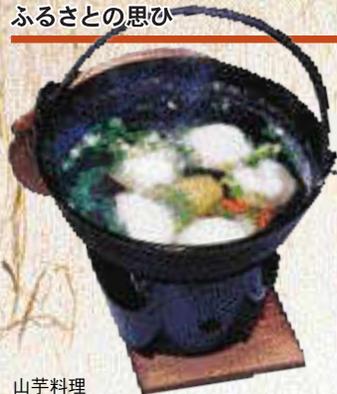
■東部自動車道も平成14年の「よさこい高知国体」開催に向けて整備が始まっています。

土佐くろしお鉄道阿佐線ルートマップ



ふるさと市での販売風景

求めに来る人達もいる。海からの風がきつい、肌寒い午前中にも関わらず、お客さんの姿が途切れることはない。  
 「やっぱり、お客さんから「おいしいねえ」って言ってもらえたときが最高やね。自分たちが手塩にかけて作った野菜や料理やき、その言葉が聞けるこの市は、今ではあてらの生きがいや。」



山芋料理

### 山芋祭り

山芋祭りは安田町を「山芋のようにたくましく、粘り強い地域にしたい」という願いから、地域全体で協力しながら、毎年行われています。安田町の地場産品でもある、自然そのままの新鮮な山芋料理がふるまわれるとあって、町の人たちだけでなく、近郊の地域から訪れる人も増えており、年々大きなイベントになっています。



山芋祭りで賑わう人々



町外との交流イベントであってほしいちや。



川上神社奉納踊り「小川の獅子舞」



### 後継者のいない田畑

どの地域にとっても町全体の高齢化は大きな問題です。安田町も例外ではなく、町の人たちの高齢化や人口の減少によって、田畑は耕されないまま荒れてしまい、その数も年々増えています。また、農作業の負担を軽くし、効率を上げるための大型機械も、農道などの整備の遅れから、入ることのできない田畑もあります。安田町ではこれらの問題に町全体で取り組んでいます。



おいに飲んで食べて楽しむ



神祭に集まる子どもたち



かつぎ手のいないみこし

みんなあで安田町に  
新しい活気をつけて  
くれんろうが。

祭のみこしは、やっぱり  
人にかついでもらいたいがよ。

### 態野神社秋祭り

祭りばやしや出店、祭りを見物する人たちにぎわっていましたが、主幹産業である農林業の衰退とともに、態野神社の秋祭りも年々、寂しいものになってしまいました。そこで、昔のように賑やかな秋祭りを復活させようと、安田町では20年ほど前から子供たちを中心とした秋祭りを行っています。地元の伝統文化を後世の子供たちに伝えるためにも、町の人々とともに秋祭りに参加してみませんか。



町内を巡るみこし



みこしに  
乗って  
まわろう

みこしに  
乗って  
まわろう



赤鉄橋



清流キャンプ場周辺

今と昔じゃま風景も  
だいぶ変わったとき、  
写真で案内するからね。



旧／赤鉄橋



旧／授業風景



旧／農林業（かつての主幹産業）



ゆず畑（現在の主幹産業）



旧／映画館



旧／神峯神社秋祭り



旧／神峯神社奉納相撲



旧／中山小学校

# マなつつかし

## 蛇姫様伝説

昔、高知の城下、万々屋という豪商の娘で美しい姉妹がおった。毎日、川淵に通い、水浴びの大好きな姉妹だったそう。あまりの通いの多さに両親も水浴びを禁じる。が、次第にふたりの体が蛇のような体つきになってきたことに、さすがの両親も戸惑い、家を出す。すると姉は讃岐の満濃ヶ池へ、妹は安田の逆瀬釜へと飛び込んだという。妹が逆瀬釜へ行く前に「自分の寝姿を見てはいけない」と宿屋・吉田屋の主人に伝えるが、その約束を破ってしまう。女が去ってから吉田屋には不運なことばかりが続き、ついには潰れたという。里人は蛇神のたたりだと噂した。

逆瀬釜

島石  
ピクニック広場

● 小川小学校跡

● 安田川鮎踊る  
清流キャンプ場

● ふるさと小川  
地場産品販売所

● 旧森林鉄道

● 川上神社



みみなし魚(ゴリ獲り)



キャビン(宿泊施設)



清流キャンプ場

## 見よが石

昔、山伏姿の5人が旅に疲れ、ある部落へたどりつく。しかしその奇妙なみなりと怪しい雰囲気、宿を貸すものは誰一人いない。あきらめかけて最後に訪ねた老夫婦の家で、庭先を貸してもらうことになる。山伏は翌朝、礼をのべ老夫婦にこう言った。「この部落は不吉じゃ、今に山神様がお怒りになる。がしかし、あなたたちを助けるから山の上の大石に登って見ているがよい」といって後にした。半信半疑でその石の上に登って村を見渡していると、ものすごい音とともに対岸の谷が崩れて村全体が埋もれてしまった。このことからふたりが上がっていた大石は「見よが石」と言われるようになった。



木造菩薩型立像



木造薬如来座像

味は格好じゃないぞね。  
作る人の愛情よ、愛情ね。  
まあ、いっぺん食べてみや。

安田町は鯉や鯖といった海の幸、鮎を代表とする川の幸、無農薬の柚子やイチゴ、山芋などの山の幸、清流を生命とする地酒づくりや醤油づくりが盛んです。



柚子と山芋

## 銭の雨が降る

文久2年のある秋の夜、中山郷の豪農・西岡幸右衛門が夜なべに草履づくりに励もうと思ひ、軒下へ藁を取りにいくと藁の上に一文銭がのっていた。なおも仕事を続けていると今度は一朱銀が降ってきた。たちまち村中の評判になり、なにしろめでたいというので村のほうぼうから、酒や肴をたずさえて祝にやってきた。宴会の席でも銭が降ってきたと言われ、4~5日の間降り続き「はよう、使わんと木の葉になる」といってその銭を全部使ってしまった。そして銭を盛ってあった盆が残り、今でも西岡家に伝えられている。この話は作り話でなく実際に降るのを見た幸右衛門の妻、かねから聞いたものである。



川上神社奉納踊り「小川獅子舞」

● 星神社  
オガタマの木

● ハケの谷

● 熊野神社  
● 国指定重要文化財  
北寺仏像群(9体)



● 味工房じねん  
(旧中山小中学校跡)

● ほたるの里  
河川公園

● 旧へんろ道

● 中山郷庄屋跡

● 二十士副主領  
清岡治之助碑

● へんろ坂



● 四国八十八ヶ所27番札所  
神峯寺

● 空と海の  
展望公園

● 県指定保護文化財  
● 神峯神社

● 大きくすの木  
(天然記念物)